

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100353		
法人名	株式会社ケアあおもり		
事業所名	グループホームてるてるぼうず		
所在地	青森県青森市高田字川瀬334-5		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・コロナ禍であるため、地域や家族との交流に制限があるが、できるだけ入居者様にはストレスを感じさせないよう、諸行事開催に取り組んでいる。 ・スタッフ一人ひとりが意識しながら、働きやすい環境作り、介護という仕事が好きという気持ちを尊重しながら、意見を出し合い、日々の業務を努めている。 ・家庭的な雰囲気を大切にして、入居者様が安心して生活を送ることができるよう、日々努力している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>町内会や婦人会、民生委員等がホームの事を理解し、多くの協力を得ることができる環境であり、地域住民とも気軽に声をかけ合ったり、野菜をいただく等、良好な関係を築いている。 災害時に備え、ホーム独自の備えを整える取り組みに力を入れている他、浸水時は近隣にある施設に避難できるよう、協力関係を築いている。 職員は、利用者が家庭的な雰囲気の中で、自分らしく、健康で明るい日常生活を送ることができるよう、心を一つにしてケアに取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に、理念、スローガンといった目標を皆で唱和し、理念等の浸透及び啓蒙を行い、共有できるようにしている。	法人の経営理念・スローガン・グループホーム合同目標の他、ホーム独自の理念を作成し、パンフレットにも掲載している。また、朝礼での唱和により全職員で共有を図り、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は地域との交流ができない状態が続いているが、コロナが収束して通常の状態に戻った際には、地域との交流を徐々にでも再開していきたい。	コロナ禍前は、近くの市民センターを借りて開催するホームの納涼祭に、多くの地域住民が参加する等、町内会の行事等を通して積極的に地域との交流を図っている。また、コロナ禍で中止になる行事が多い中、今年は地域のねぶたや獅子舞がホーム前庭に来て、利用者を楽しませている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は入居の申し込みの際でも施設内見学等に制限があるが、コロナが収束して通常の状態に戻った際には、以前と同様に受け入れていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度も委員の意見も踏まえ、書面での会議開催となっているが、運営推進委員からは開催の都度意見を頂戴し、サービスの向上に反映させている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、書面にて開催しており、利用者やホームの状況等の報告を行い、メンバーには意見をいただくための用紙も一緒に送付している。メンバーからいただいたメッセージは職員の励みにもなっており、意見や提案はサービス向上に活かすように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、市や地域包括支援センターと情報交換をしている。	コロナ禍のため、書類の提出は郵送で行っている他、必要に応じて電話で情報交換等を行っている。また、確認事項や質問がある時等はこまめに電話して、課題解決に向けた協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として、各種拘束のないケアの提供に努めている。毎月の職員会議の際や施設内研修でもテーマを扱い、周知徹底を図っている。	年1回、全職員で指針の内容を確認する機会を設けている他、事例検討と勉強会を行ったり、3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、議事録を全職員に回覧して理解を深めている。管理者及び職員は身体拘束は行わない姿勢で日々のケアに取り組んでおり、やむを得ず拘束を行う場合は家族に説明した上で同意書をいただき、経過や継続の必要性の話し合い等の記録を残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、施設内研修でテーマを取り上げて、スタッフの理解、周知徹底を図っている。些細な声かけの内容についても、スタッフ同士で是非の声をかけ合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学ぶ機会はあるものの、全てのスタッフが深くまで理解し、活用できるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居してからのリスクから看取りまで、幅広く丁寧な説明を行い、理解をしていただいた上で入居利用をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は、家族等から直接の意見はあまり聞かれていないが、こまめに施設より家族へ連絡をしており、都度意見がないか聞くようにしている。	利用者との会話を通して、意見や要望を聞けるように働きかけている。家族には毎月担当職員から、利用者の状況を報告する手紙を写真入りで送付している他、電話時や家族が物品を届けに来てくれた時等にも意見等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者へは管理者を通じて、意見があれば提案できるルートを確立している。	業務の合い間等を利用して、自由に職員同士で意見交換をしたり、管理者にも話ができる環境であり、出された意見や提案を業務に反映させ、働きやすい環境となるように取り組んでいる。また、必要に応じて管理者との個人面談の時間も設け、気軽に相談できる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	系列施設とも勤務表を共有しており、働き方等について意見交換ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の能力に応じた研修の機会を作っている。現状維持ではなく、向上できるような働きかけも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他施設とはほぼ交流する機会はないが、系列施設とはオンライン等を通じて、いつでも様々な活動ができる体制である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に意識はしているが、特に新規入居となった方については、信頼関係の構築と共に、各種情報や要望等を傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に主に傾聴するようにしているが、それ以外であっても、こまめな連絡の際に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に主に傾聴するようにしているが、それ以外であっても、こまめな連絡の際に聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護している、されているといった考えのない関係の構築を目指し、スタッフに指導している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護員だけが介護するのではなく、家族も一体となって本人を介護していくことを、契約時にも話している。細かな事であっても家族から協力が得られるよう、体制作りを常に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、直接の訪問、面会については困難な状況であるが、毎月のお手紙で家族へ様子を伝えている。	コロナ禍で面会を制限せざるを得ない状況であるが、看取りが近い等の状況によっては、防護服着用等で面会してもらっている。外部との接触はできるだけ避け、個々の希望に沿った外出も控えているが、ライン電話を利用して家族との会話の機会を作る等、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルは確かにあるが、以後、遺恨等が残らないよう、その場で解決するように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても時折家族が訪問してくれて、リンゴをいただいたり、情報交換ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活を提供できるよう、場合によっては家族も交えて話し合い、どうすれば本人にとってより良い生活ができるのか、検討を行うこともある。	日々の会話を通して利用者の思いや希望の把握に努めており、入浴や就寝の介助で1対1になった時等、ゆっくりと話を聞くこともある。また、家族からも電話連絡時等に情報を得られるように働きかけ、申し送りノートの利用や業務日誌に付箋を貼る等して、職員同士で情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	わからない事があつたら家族も巻き込み、本人の希望を叶えられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰介護にならないよう、生活リズムの把握や自立支援を主とした援助を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は定期的に見直しており、本人または家族の了解も得て反映させてもらっている。	日々の関わりを通して利用者の表情や言動を注意深く観察している他、何気ない会話から把握した意見や希望も記録に残し、介護計画に反映させている。また、家族が物品を届けに来た際や電話時に意見を聞き、利用者一人ひとりの希望や状態に応じた個別の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化にも気づけるよう、日々指導している。変化があった場合にはスタッフ同士で話し合い、申し送りをして全体への周知徹底を図り、対応するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は、本人が希望するような外出支援等が行えない状況である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域交流等もほとんどできない状態が続いており、施設内でスタッフとのみの関わりで、ニーズへの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が訪問診療を受けており、主治医とは24時間いつでも連携できる体制が取れている。	入居時にこれまでの受療状況を聞き取りすると共に、協力医療機関による訪問診療も利用できることを説明している。他の医療機関の受診を希望した場合や定期外及び他科受診が必要になった時も、状況を適切に伝えるためにホーム職員が受診に付き添い、必要時は家族にも受診に同行していただき、情報共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも訪問診療の看護師と連絡が取れ、報告相談等ができる体制が取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合であっても、定期的に、状態確認や退院に向けた情報交換等の連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より十分な説明を行い、本人または家族から理解を得られるように努めている。	入居時にホームの方針を説明しており、状態変化に応じて随時話し合いを行い、意思統一を図った上で看取り介護に取り組む体制である。ホームでは24時間対応可能な協力医療機関や訪問看護師との連携を図ると共に、職員も勉強会等を通して知識を深め、相談・協力しながら対応できる環境作りに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフが同一の対応を取れるまではまだまだ時間がかかると思われるが、基本的な初期対応は日頃から指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は地域を巻き込んだ訓練は行えていないが、施設内において、年2回の避難訓練は夜間を想定して行っている。	避難マニュアルや連絡網を作成し、年2回、避難訓練を行っている他、業者委託で設備点検を行っている。災害発生時には地域住民から協力が得られるよう、連絡網には町内会長も含まれている他、コロナ禍前は運営推進会議の際に訓練を行い、メンバーに見学してもらう機会を設けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「待つて」の一言についても、どうして待つてほしいのか、どれくらい待つてほしいのか、理由や伝えるニュアンスにも注意するようにしている。	日頃から声がけには十分に注意を払っており、その都度呼びかけへの反応を確認し、利用者個々のペースに合わせた支援を心がけている。不適切なケアが見られた時は、管理者がその都度注意する他、職員同士でも気軽に注意し合える関係作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には本人の自己決定を尊重したケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によっては業務のペースとなることもあるが、基本的には、本人がどのようにしたいのかを優先した支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択については本人に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日好みの食事を提供できている訳ではないが、順番に個々の好みの食事を提供できるように努めている。	各ユニット1名ずつ係を決め、利用者の希望を聞きながら献立を作成している。敬老会や大晦日に職員手作りの豪華な行事食を提供する等、利用者の楽しみとなるように工夫しており、食事形態にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下状態や摂取量を把握し、適切に提供できるよう、日々の観察に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアは欠かさずに行っている。また、義歯等に不具合がある場合は、協力歯科医院と連携を取るようになっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を減らすことに困難を感じてはいるが、個々に合わせて定期的な排泄が行えるよう、支援を行っている。	個々の排泄パターンに合わせて声がけし、できるだけ失敗なくトイレで排泄できるように支援している。その時々体調や状態変化に応じて、随時職員間で排泄用品の変更やケアの仕方を話し合い、利用者や家族の意向を確認しながら、個々の状態に合わせた排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の提供、適切な薬の服用により、便秘のない生活を送れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	曜日や時間帯は施設の都合により行っている。	1人週2回は入浴できるよう支援しており、個々の意思や状況に応じて、清拭や洗面所での洗髪等の対応も行っている。拒否が見られた時は時間を置いたり、声かけの工夫を工夫している他、どうしても難しい場合は翌日にする等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に合わせて休んでもらったり、活動する等、本人に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その時の本人の状態に合わせ、事前に医師より指導があった通り、適切に服用をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在は外出の機会が減ってはいないが、その代わり、施設内での話題や個々の役割に応じた支援を行い、ストレスの緩和に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在はコロナ禍の影響で、ドライブ程度しか外出の機会がない。	利用者の希望を聞き、外食や買い物に出かけることも多くあったが、コロナ禍では人との接触を避けてホーム内行事に工夫を凝らし、利用者が気分転換できるように支援している。また、感染状況を見ながら、ドライブして車窓からの景色を楽しんだり、知人のサクランボ園を貸し切りにしてサクランボ狩りを行う等、利用者が安全に楽しめるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてトラブル防止の観点から、ほぼ施設側で管理を行わせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については特に制限は設けていない。面会の代わりに、ライン電話での面会を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内装飾を季節や行事毎に変えて、季節感や各種行事の雰囲気を感じてもらっている。	ホーム内はリビングの窓から日射しが十分に入って明るく、季節に合わせた手作りの作品が壁に飾られ、活気ある雰囲気となっている。暖房で乾燥しがちな冬は加湿器を利用したり、濡れタオルを干している他、リビングの温・湿度計を確認して、居心地の良い環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由で、個々に好きな場所で寛いでもらっているが、多くはそのまま自席で過ごすことが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へ私物を持ち込むことに、特に制限は設けていない。	入居時の持ち込みの制限はなく、馴染みのある物を持って来てもらうよう働きかけている。また、持ち込みが少ない場合は、担当職員が利用者の意向を確認しながら必要な物を揃える等、安心して過ごせるよう、居室作りをお手伝いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一つひとつの行動に過剰介護とならないよう、自立支援を心がけた声かけの工夫、ケアの提供に努めている。		